

仙台市太白山自然観察の森 情報誌 2022年12月号

森のおくりもの12

NO.375 The Gift from Woods

ボタンヅル（キンポウゲ科）



早いものでもう師走。12月の声を聞くと、暗示にかかったような妙なあせりでしょうか、不思議な感覚になります。今年1年、太白山自然観察の森をご利用いただきありがとうございました。観察センターへ赴任し、虫や花を見つけては名前を調べて、展示等に活かす方法を模索している中、もふもふ・フワフワ好きにヒットするであろう「鳥の羽根」のような実を見つけました。白い綿毛に黒いタネが「シマエナガ」みたいでかわいらしいと思いませんか。慌ただしいこの時期ですが、静かな森へ癒しのモフモフボタンヅルで心を癒しに来てください。

【文：館長 佐藤由美】

森のことは

自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

『冬来たりなば春遠からじ(ふゆきたりなばはるとおからじ)』

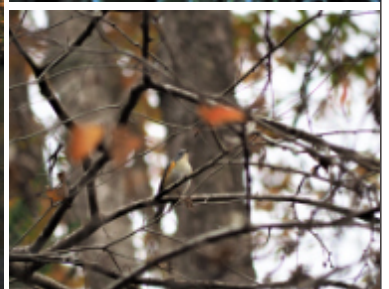
赤や黄色などの色彩豊かな紅葉の時期が終わり、樹々が葉を落とした森の光景に、冬の到来を実感させられ寂しく感じます。寒くて辛い冬が来たのだと思うとともに、ついこの間年が明けたと思っていたのに、時が過ぎるのは早いもので、あっという間に一年が経ってしまったと愕然としました。

暑いのと寒いのでどちらがいいかは、人によって好みが分かれるところですが、一般的に冬は長く厳しい寒さで辛いと感じてしまいます。凍結したり大雪が降ったりするので事故や災害も発生して命の危険もあるため、苦難やどん底というマイナスの暗いイメージがあります。反面、春には暖かくなっていくことから前向きで明るいイメージを感じさせられます。

そんな長い冬を耐えて春を待ちわびる気持ちを表現した『冬来たりなば春遠からじ』という言葉があります。「厳しい冬が来たということは、もうすぐ暖かい春が来るということ」から、「辛い時期を乗り越えれば、幸せな時期は必ず来る」という意味です。この言葉は日本に古くからあることわざか故事成語だろうと思っていましたが、調べたらイギリスの詩人パーシー・シェリーの詩『西風に寄せる歌』の一節“If Winter comes, can Spring be far behind?”を訳した言葉だと知り驚きました。

私たちが現在置かれている状況は、様々な問題によって生活に影響し、先行きが不安で暗い気持ちになり、まさに冬を感じます。自然の生物の中には、冬の時期は耐え忍ぶだけでなく、力を蓄えたり春に向けた準備をしていたりと意味がある期間になっているものもあるようです。私たちもこの困難を次のステップに向かうための必要な試練と考え「辛く厳しい冬はいつまでも続くことはない。その先には必ず春が来る」と思えば、辛さの先にある希望をみつめて、乗り越えて行けるのではないのでしょうか。

【レンジャー：新田隆一】



12月の生物ごよみ

12月から3月末までセンター裏庭で恒例のバードテーブルを設置します。研修室からゆっくりと観察できますので是非お越しください。【レンジャー：齋 正宏】

バードテーブルに集まる野鳥たち



ヤマガラ

留鳥として一年中見ることが出来る。オレンジ色の胸が特徴。

大きさ：14cm



シジュウカラ

胸の黒い筋が特徴。住宅地などでもよく見ることが出来る。

大きさ：15cm



カワラヒワ

小グループで行動する。ペンチのようなくちばしでひまわりの殻を割って食べる。

大きさ：15cm



ヒヨドリ

他の鳥たちをけちらし、バードテーブルを占領することもある。

大きさ：28cm

冬鳥情報

	11月 下旬	11月 中旬	11月 月上旬	12月 中旬	12月 下旬	1月 月上旬
アオジ	(アオジ)					
カシラダカ			(カシラダカ)			
ジョウビタキ			(ルリビタキ)		(ジョウビタキ)	
ルリビタキ						
ベニマシコ						(ベニマシコ)
キクイタダキ	(キクイタダキ)					

森の「あれこれ」



「タヌキのまなざし」



早朝の森、息をひそめていると笹が揺れ、ホンドタヌキ(以下タヌキ)が現れました。およそ20m先の笹藪の中です。双眼鏡でとらえた瞬間ドキリとしました。まるでこちらを見据えているように見えます。

弱い光で写したブレブレ写真なので、スマホやパソコンのweb画面の方がきれいに見えるかもしれません。(右のQRコードからお探し下さい)



このタヌキは数枚シャッターを切るうちに颯爽と左側の藪に消えていきました。

タヌキは夜行性と言われています。自動撮影のカメラの映像では暗い時間帯がほとんどでした。日中目撃したのは野鳥のエサ台に来た皮膚病の弱った個体で例外的な出現です。今回は健康できれいな毛並みでした。

さて、実はタヌキは視力が弱いと言われています。むしろ匂いや音で周りを察知するようです。上の写真は私が不用意に立てた音に反応したのかもしれませんが。いや、でもこのまなざしは…。【レンジャー：木田秀幸】

森は糸



森は布

森は様々な生き物が互いにつながって
森として生きているんですね (*_*)

昆虫は変温動物ですから、気温が下がる冬は活動ができません。この時期をいかに乗り切るかはまさに生死に直結する問題です。暖かくなり活動できる時期までをどのように過ごしているのでしょうか。雪に覆われる前の森で見られた昆虫の姿を紹介します。私たちのように暖をとって快適に過ごせるといいのですが。 …(^_^)



最初は卵で越冬する昆虫(写真①、②)です。親自らはほとんどが産卵の後死んでしまいます。写真①はクヌギカメムシの卵塊、②はオオカマキリの卵鞘(らんしょう)です。次は、幼虫で越冬する昆虫です。写真③の枝に擬態しているのはコミミズクの幼虫、写真④は葉の裏側にいたオオムラサキの幼虫です。体の中に凍らない仕組みをもち、エサを食べずに過ごせるよう休眠状態に入ります。また、アゲハ蝶のように蛹となって越冬する昆虫もいます。最後は、成虫のまま休眠状態になる昆虫です。落ち葉の下、樹木の隙間などの温度変化の少ない所で越冬します。写真⑤はエゾアオカメムシ、写真⑥はルリタテハです。翅の裏側は樹皮そっくりで越冬の姿を探すのは大変です。写真⑦はシロテンハナムグリ。夏季に羽化した成虫は越冬をすることも！みんな必死に生き抜いているんですね。 ……(^_^) 【レンジャー:菅原幸彦】

12月のイベント & お知らせ

イベント

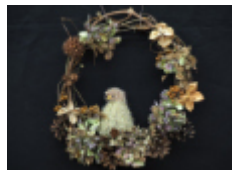


◆「おはよう野鳥かんさつ」

- 【日 時】12月10日(土) 7:00～8:30
- 【対 象】中学生以下は保護者同伴 15名
- 【内 容】講師の解説を聞きながら冬の雑木林でバードウォッチングをします。
- 【持ち物】双眼鏡、飲み物、帽子、かっぱ、防寒具、歩きやすい服装と靴
- 【申込み】12月6日(火)午前9時より電話受付(先着)

◆「小鳥のリースを作ろう」

- 【日 時】12月11日(日)・12月18日(日)(どちらかの1回) 13:30～15:00
- 【対 象】小学生以上 各日 10名 (小学3年生以下は保護者同伴)
- 【内 容】ススキで作った小鳥や木の実を付けた自然素材のリースを作ります。
- 【持ち物】参加費100円
- 【申込み】各日 12月7日(水)午前9時より電話受付(先着)



◆「冬の森の自然あそび」

- 【日 時】12月17日(土) 10:00～12:00
- 【対 象】小学生以上の子どもとその保護者 10名
- 【内 容】森の散策や自然の素材で飾りを作るなど、冬の自然に親しみます。
- 【持ち物】飲み物、帽子、かっぱ、防寒具、歩きやすい服装と靴
- 【申込み】12月8日(木)午前9時より電話受付(先着)

◆「野鳥のレストラン」OPEN!

- 【期 間】12月1日(木)～3月31日(金)まで 開館時間中野鳥のためのえさ台を設置します。食べる様子を窓からそっと見ることができます。

ガイドウォーク 毎週日曜日開催
申込み不要、どなたでも参加できます。

開催日: 4日, 11日, 18日, 25日

時 間: 10:00～11:30

※12月～3月の冬季は午前1回のみ開催

休 館 日



5日, 12日, 19日, 26日

**毎週月曜日休館、年末年始
12月28日～1月4日まで休館**

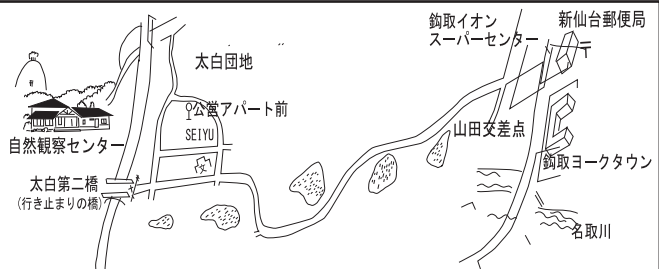
観察の森へのアクセス

宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
 - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
 - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③「太白団地経由山田自由ヶ丘車庫行」
※③のみ可「太白団地、山田自由ヶ丘経由仙台南ニュータウン行」
いずれも 公営アパート前 下車 → 徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。
駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63
Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財)仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター